

## 菊地三郎先生の前半生とその時代(上)

### 【サマリー】

木村 実季

中日文化研究所の創立者である菊地三郎先生は、明治に生まれ、大正年間に青春時代を過ごしています。昭和の戦前・戦中を新聞人として生き、戦後は文化事業へと転じて中日文化研究所を設立し、それをアジア・アフリカ文化財団へと発展させました。

菊地先生が中日文化研究所を創立したのは終戦直後の1946年(昭和21年)、42歳の時でした。そこからの歳月を菊地先生の後半生だとすれば、その後半生の全ては中日文化研究所とアジア・アフリカ文化財団に捧げられたといっても過言ではないでしょう。したがって、中日文化研究所とアジア・アフリカ文化財団の歴史が菊地先生の後半生そのものであり、その事績は両団体の活動記録を追うことでかなりの程度把握することが可能です。これに比して、中日文化研究所創立までの前半生については、それを知る手がかりはわずかであり、ほとんど何も分からない状態だといってもよいでしょう。

菊地先生はどのような前半生を過ごされたのでしょうか。また、それはどのような時代だったのでしょうか。本稿は、菊地先生の人格形成の背景となった時代状況を概観し、そこから人物理解のヒントを掴もうとする試みです。大正から昭和にかけての「時代」と「社会」に触れつつ、菊地先生が自らの思想信条とした「愛我・愛国・愛民」の由来を探っていきたいと思います。